



第1回「下瀬谷小・日向山小」 小規模校再編検討委員会NEWS

「第1号」
平成20年5月21日
発行：検討委員会事務局



「第1回」検討委員会 開催
★平成20年4月25日(金)19時から
★日向山小学校「市民図書室」

「次 第」

- 1 開会
- 2 教育委員会事務局学校再編担当課長挨拶
- 3 副委員長について
- 4 議題
 - (1) 横浜市の子童・生徒数の状況について
 - (2) 見直しの考え方と方策等について
 - (3) 下瀬谷小・日向山小の現状と課題について
 - (4) 両校の現状を踏まえた適正規模化方策
 - (5) 今までの小規模校再編統合の事例について
- 5 その他
 - (1) さわの里小学校の見学について
 - (2) 次回の日程について
- 6 閉会



- ❖ 副委員長に「芦澤日向山小学校学級委員運営委員長」が委員全員の承認のもと決定しました。
- ❖ 前回の準備会の際に事務局より提案しました、検討委員の方々による「さわの里小学校」の施設見学について委員の方々に図った結果、平成20年5月28日(水)15時からとすることで決定しました。

新年度ということで、各所属団体の役員改選及び事務局側の人事異動等によって、新たに検討委員会委員となられた方々のご紹介と事務局側の紹介を行いました。(検討委員名簿は4ページに掲載)

「委員長より」

新委員になられた方々におかれましては、お忙しいところ誠に恐縮ではありますが、両校の子どもたちのより良い教育環境の確保に向けて、共に知恵を出し合いながら、議論を重ねて参りたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。との挨拶がありました。

第1回検討委員会では、事務局より「横浜市の子童・生徒数」及び「両校の現状」並びに「適正規模化方策」や「これまでの統合事例」等について説明がありました。

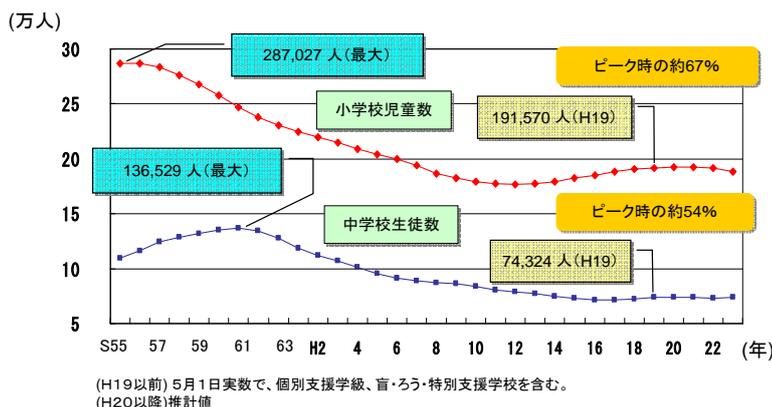


～議題～

- (1) 横浜市の子童・生徒数の状況について
「児童・生徒数の推移」

～少子化による児童・生徒数の減少～

小学生の数は、ピーク時(昭和55年)の6割に減っています！



横浜市立小学校全体の児童数の推移は、昭和55年の28万7,027人をピークに少子化傾向を受け、平成12年度には、17万6,324人にまで減少しています。

現在、若干の微増傾向にありますが、19万人前後で推移すると見込まれており、一時期のような全市的な児童数の急増は考えられない状況にあります。

なお、児童数の推移は行政区によってばらつきがあり、概ね南部方面(金沢区、磯子区、港南区)は減少傾向にありますが、北部方面(港北区、緑区、都筑区)は増加傾向となっています。

横浜市では、平成15年12月に「横浜市立小中学校の規模及び配置の適正化並びに通学区域制度の見直しに関する基本方針」を策定し、平成16年度から学校規模の適正化に取り組んでいます。

この基本方針の中で、小学校、中学校ともに12学級から24学級を適正規模の範囲と定めています。

その理由としては、小学校の場合、各学年2学級以上あることにより、どの学年でもクラス替えができる。また、総合的な学習等における課題別の活動や特別活動(クラブ活動や児童会活動)等の充実が図りやすいということによるものです。

小規模校の校数

再編統合着手時点(平成16年度)
小学校 52校、中学校21校

↓
再編統合等による適正規模化の推進

小学校 11学級以下 34校
中学校 8学級以下 15校

(平成19年5月1日現在)

(2)見直しの考え方と方策等について

「横浜市立小中学校の規模及び配置の適正化並びに通学区域制度の見直しに関する基本方針(抜粋)」

【学校規模の適正化方策】

1小規模校対策

小規模校の問題点を解消し、教育環境を改善するとともに、効果的、効率的な学校経営を行うために、地域と十分調整を図り、地域住民の理解と協力を得ながら、学校統合、通学区域の変更等を行い、学校規模の適正化を推進する。

特に、次のような地域等に関しては対象として進める。

【対象地域】

(ア)『小学校』全体の学級数が11学級以下の学校が複数近接する地域

(イ)『中学校』全体の学級数が8学級以下の学校が複数近接する地域

(ウ)小規模化の進行が著しく、教育環境確保のため早急な対応が必要な地域

ただし、通学区域内の土地の利用予測などを踏まえ、将来的にも人口急増が見込めない学校を対象とする。

(3)下瀬谷小・日向山小の現状と課題について

下瀬谷小・日向山小の概要

両校の概況

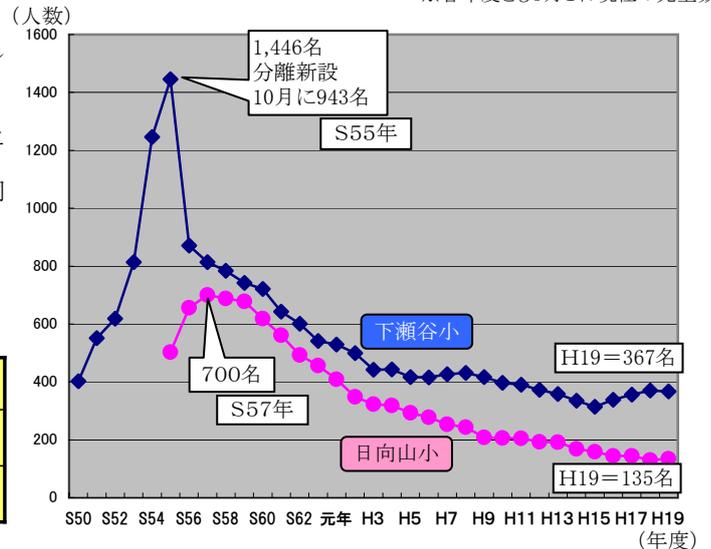
下瀬谷小学校は、昭和50年9月に南瀬谷小学校から分離新設した学校で、開校当初は、402名の児童数となっていました。昭和55年には1,446名の大規模校となりました。その後は減少傾向が続き、平成19年度には367名となっております。

一方、日向山小学校は、下瀬谷小学校が大規模校となった昭和55年に分離新設した学校で、開校当初は503名の児童数でしたが、昭和57年には700名の児童数となり、その後は同じく減少傾向が続いているなかで平成19年度には135名となっております。

学校の開校

学校名	開校年月	備考
下瀬谷小学校	S50年9月	創立33年 ◎南瀬谷小から分離新設
日向山小学校	S55年9月	創立28年 ◎下瀬谷小から分離新設

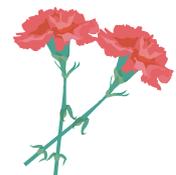
下瀬谷小学校及び日向山小学校の児童数の推移(昭和50年度～平成19年度)
※各年度とも5月1日現在の児童数



平成19年度「義務教育人口推計」(個別支援含まず)

「個別支援学級児童を除く、平成19年度・20年度は実数値、平成21年度以降は推計値」

		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	保有教室
下瀬谷小	児童数	367	345	352	316	290	259	247	20
	学級数	13	13	12	11	10	9	8	
日向山小	児童数	135	135	126	131	117	116	110	11
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	



【お詫び】

※ 4月15日発行の「準備会ニュース」で2ページに掲載している推計表は、H18年度数値を使用しておりました。申し訳ございませんでした。改めて、平成19年度の義務教育人口推計表の数値を掲載させていただきます。また、下瀬谷小学校の保有教室「20」は、内部改修が可能なスペースを含めた数となっております。

(4) 両校の現状を踏まえた適正規模化方策



隣接校の平成19年度「義務教育人口推計」(個別支援含まず)
「個別支援学級児童を除く、平成19年度は実数値、平成20年度以降は推計値」

		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	保有教室
瀬谷第二小	児童数	728	728	697	688	680	677	669	23
	学級数	21	20	19	19	19	19	19	
南瀬谷小	児童数	893	903	919	922	905	899	857	34
	学級数	25	24	25	25	25	25	24	
原小	児童数	1,044	1,034	1,009	948	917	884	845	31
	学級数	31	29	28	27	26	25	24	
飯田北小	児童数	210	198	177	173	163	145	144	16
	学級数	8	8	7	6	6	6	6	
いずみ野小	児童数	383	387	369	355	346	338	335	17
	学級数	12	12	12	12	12	12	12	

隣接校の学級数及び保有教室数は、適正規模校として維持されていく状況にあることから、下瀬谷小及び日向山小の適正規模化方策については、通学区域の変更では困難と思われます。
※ 飯田北小はすでに小規模校のため、日向山小への学区変更は困難

(5) 今までの小規模校再編統合の事例について

新校名	並木中央小	霧が丘小	上郷小	庄戸小	若葉台小	若葉台中	さわの里小	野庭すずかけ小
新校の学級数	13	18	15	12	17	10	12	17
統合前の学級数	並木第二小 6 並木第三小 9	霧が丘第一小 6 霧が丘第二小 6 霧が丘第三小 11	犬山小 9 矢沢小 6	上郷南小 8 野七里小 9	若葉台東小 6 若葉台北小 6 若葉台西小 7	若葉台東中 6 若葉台西中 7	上中里小 12 米取沢小 6	野庭小 6 野庭東小 16
設置場所	並木第二小	霧が丘第二小	犬山小	上郷南小	若葉台北小	若葉台東中	上中里小	野庭東小
開校日	平成18年4月1日				平成19年4月1日			平成20年4月1日
統合校の通学区域	並木第二小・並木第三小通学区域全域	霧が丘第一小・霧が丘第二小・霧が丘第三小通学区域全域	犬山小通学区域全域、矢沢小・野七里小通学区域の一部	上郷南小通学区域全域、野七里小通学区域の一部	若葉台東小・若葉台北小・若葉台西小通学区域全域	若葉台東中・若葉台西中通学区域全域	上中里小・米取沢小通学区域全域	野庭小・野庭東小通学区域全域、下野庭小通学区域の一部
新校教育目標(検討委員会の意見書から)	1.海外の人との交流 2.パソコン操作のマスター 3.プレゼンテーション能力の開発 4.子どもたちの体力強化	1.小・中学校9年間を見通した新しいカリキュラム作り 2.地域と共にある学校づくり 3.教育プログラムにおけるICTの積極活用	1.自分らしさを発揮できる環境づくり 2.「学び」を追求していく学習課程の工夫 3.地域への積極的な働きかけ	1.人・もの・ことに豊かにかかわる 2.自分を豊かに表現する 3.課題や問題を粘り強く解決する	1.基礎・基本の習得 2.小中一貫教育 3.近隣高校との連携	1.国語教育の充実 2.地域特性を活かした教育活動	小中一貫教育	

第1回検討委員会が出された主な質問

◆質問:横浜市教育委員会のホームページを見て、通学区域の見直しを進めるにあたってという項目があり、その中に統合にあたっては、統合校を魅力ある学校とするように教育委員会として支援をするとあったが、教育委員会側として魅力ある学校とはどのようなことを考えているのか伺いたい。

～回答(事務局)～

まず誰にとって魅力ある学校であるかということです。基本的には子どもにとって魅力ある学校であり魅力ある教育ができることが第一だと考えます。

仮に統合することになれば、委員の皆様から「こんな学校を望む」あるいは「このような教育ができる学校を」等を意見としていただくことになるとは思いますが、皆様方からいただいた意見をひとつでも多く叶えるためにも、これまで関わっていただいた先生方の人員配置や、学校の施設整備等についても教育委員会としてできる限りのことは支援させていただきたいと考えております。

◆質問:小規模校の問題点がいいろいろ書いてあるが、小規模校の良いところもあると思う。例えば校長先生と親しみやすくなるとか、山里の分校などでは違う学年の子と交流できるとか、いろいろあるがその辺はどうか。

～回答(事務局)～

小規模校の特色については、おっしゃるとおり必ずしも課題ばかりではありません。良い点もあることを十分理解しております。上級生と下級生が一体となって活動を行うとか、授業自体もきめ細かく、目が行き届くことは確かにあると思います。しかし、そのようなメリットが、小規模校が標準規模校になると無くなる、ということは必ずしもないと考えます。

異学年の交流は、縦割り活動と言っていますが、一般的にどの学校でも行われていることです。

また、きめの細かさという面では、一般的に小規模校というと、少人数の学級と混同する場合がありますが、必ずしもこれはイコールではありません。

例えば単級でも、1学年(1クラス)40人、それが6学年までいる場合と、40人いるところで仮に20人増えて、60人になるとします。国の基準では現在40人を1クラスとしているので、40人を超えともう1クラス作ることになります。60人になると2クラスとなり、30人ずつの学級となります。よって、より目が行き届くことになります。

このようなことから、必ずしも小規模だから目が行き届くということとは言えないと考えます。今後、検討委員会において、小規模校の良いところや問題点等も含めてご議論いただければと考えます。

◆質問:統合するにあたって、子どもたちの通学路が問題になると思うが、小学校の適正な通学距離というのは実際にあるのか。

～回答(事務局)～

横浜市が定めている基本方針の中に、適正な通学距離を示させていただいており、小学校は概ね2km以内、中学校は概ね3km以内と決めています。

◆質問:保護者の観点から、統合するにあたって一番心配なのは交通安全だと思うが、統合すれば下瀬谷小側に住んでいる子どもたちが日向山小側にお友達同士で遊びに行く、あるいはその逆もあると思う。ヤマダ電機のあたりから瀬谷駅までは、派出所が一つも無いため親としても不安なところがある。子どもも、派出所があることで安心だと思う。派出所の設置の働きかけは出来るものなのか。

～回答(事務局)～

本検討委員会の中で、仮に「統合する」とご意見が固まった場合には、その後、設置校をどこにするか、あるいは新学校名をどうしようかと検討していただくこととなります。その後には、通学安全についても議論いただくこととなります。最終的に、この検討委員会で決定していただいた内容は、「意見書」として、文書で検討委員会委員長から横浜市教育長へ提出していただきます。その中に交通安全に関する要望も入れていただければと思います。それに基づき、教育委員会として、警察への協力要請等できる限りの協力をさせていただきます。

～回答(副委員長)～

日向山地区には、複数の自治会があり、地域からも要望があります。交番を作るためには、県議会の議決が必要なので、議員を通じて何度も要望を行ってきた経緯があります。しかし、派出所の設置にあたっては、ある程度の世帯数が必要であり、また、瀬谷区と泉区の2区にまたがっている特殊な地域でもあることから、今のところは設置されておりません。今後も粘り強く要望していきます。

◆質問:下瀬谷小並びに日向山小は、それぞれ南瀬谷小学校、下瀬谷小学校から分離新設したとのことだが、日向山小学校が下瀬谷小学校から分離新設した時点での通学区域は現在と変わっていないのか、分離新設する前は、日向山小学校の学区の児童は、下瀬谷小学校に通っていたと考えて良いのか。

～回答(副委員長)～

昭和53年に日向山地区は開発がはじまり、多くの方々が引っ越してこられましたので、昭和55年の日向山小の開校までは、下瀬谷小に通っておりました。

❖「下瀬谷小・日向山小」小規模校再編検討委員会名簿❖(平成20年4月25日現在)

【委員長】

○網代 宗四郎 瀬谷第二地区連合自治会長(南瀬谷ニュータウン自治会長)

【副委員長】

○林 茂 南瀬谷自治連合会長(南台さくら会会長)

○馬場 勝己 ひなた山第二自治会長

○田村 順子 下瀬谷小学校PTA副会長

○芦澤 真由美 日向山小学校学級委員運営委員長

【委員】

○初山 金久 下瀬谷自治会長

○初山 静史 北新自治会長

○寺島 尚 下瀬谷団地自治会代表(前自治会長)

○西村 快晴 下瀬谷第三町内会長

○松本 昇 上ノ原自治会長

○佐藤 守 ひなた山第一自治会長

○井上 勝義 ひなた山第三自治会長

○板橋 茂 グリーンハイムひなた山自治会長(ひなた山地区自治会連絡協議会会長)

○壁谷 始 ライオンズマンション相鉄いずみ野自治会代表(前自治会長)

○柳川 一博 ホーユウパレスひなた山自治会長

○市川 佐知子 瀬谷第二地区民生委員児童委員協議会会長

○森谷 薫 南瀬谷地区主任児童委員

○柏木 豊 瀬谷区青少年指導員連絡協議会瀬谷第二地区副会長

○山田 由紀 泉区青少年指導員連絡協議会上飯田地区青少年指導員

○千葉 瑞夫 瀬谷区体育指導委員連絡協議会瀬谷第二地区会長

○石川 敬 泉区体育指導委員連絡協議会和泉北部地区会長

【委員】

○吉田 康義 下瀬谷小学校PTA会長

○市川 ゆかり 下瀬谷小学校PTA副会長

○大原 紀子 下瀬谷小学校PTA会計

○平山 恵美子 日向山小学校学級委員運営副委員長

○染谷 千賀 日向山小学校学級委員運営副委員長

○西山 みさ子 日向山小学校学級委員運営委員庶務

○古川 幸子 下瀬谷小学校校長

○庄子 甲子 日向山小学校校長

○村上 文雄 下瀬谷中学校校長

○川口 康広 南瀬谷中学校校長



■ 本検討委員会は、上記の体制で今後検討を進めていきます。

【次回の第2回検討委員会の日程】

★平成20年6月10日(火) 19時から 下瀬谷小学校「コミュニティスクール」

「下瀬谷小・日向山小」小規模校再編検討委員会の経過、横浜市の基本方針等はホームページでもご覧いただけます。

・基本方針など <http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/gakku.html>

・「下瀬谷小・日向山小」小規模校再編検討委員会

<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/shoukibo/index.html>



「下瀬谷小・日向山小」小規模校再編検討委員会は、常に皆さまからのご意見をいただいております。

FAXかEメールにて、事務局までご連絡ください。

*** 検討委員会事務局 ***

横浜市教育委員会事務局 学校計画課

FAX:045-651-1417

Eメール:ky-seya@city.yokohama.jp

TEL:045-671-3253



http
@